

ふじのくにグローバル人材育成事業 報告書

参加した コース	ふじのくに地域探究コース (観光交流×アジアコース)		訪問国	大韓民国・香港	
学校名	清水南高等学校	氏名	天野ひな	学年	2

【探究テーマ】

海を活かした港町の観光 d x 事情を多面的に考える

観光 DX とは、観光業にデジタル技術を取り入れて業務の効率化や観光業の活性化を図る取り組みのことで、コロナ禍が明けてから静岡に来る外国人観光客数が増えているため観光業に興味を持ち、これをテーマに観光地として人気があり日本よりも IT 先進国である韓国と香港に約3週間留学に行きました。

【探究活動】

① 観光地の視察

韓国の釜山の人気な観光地ではどのような観光 d x の取り組みが行われているのか実際に自分で直接訪問して視察をしました。その結果、釜山全体の観光情報を得られる大型端末が何台も設置してありました。その端末では季節ごとのおすすめの観光スポットや祭り、イベント、駅の乗り継ぎの仕方、お得な情報、バリアフリーの目的地へのルートなど多言語対応で旅行雑誌では分からないようなマイナーなことも知れます。それらは、観光地だけでなく主要な駅にも設置されていて、現地の人々が利用しているのも実際に目にしました。また、香港の地下鉄 MTR の中環駅には「Virtual Service Ambassador Tracy」という AI を駆使した端末がありました。画面上にいるバーチャルキャラクターに話しかけると瞬時に返答し、図なども出してくれます。



② 街頭インタビュー

街頭インタビューでは韓国を訪れている外国人観光客にキャッシュレス決済や地図アプリなどに関することをインタビューしました。海外旅行では現金かキャッシュレス決済どちらがいいかという質問では7割がキャッシュレス派でしたが、現金派では旅行の記念として現地の通貨を使いたいという声もありました。

③ 韓国全体を通して

観光案内所はデザインが洗練されていて気軽に入りやすかったです。韓国の飲食店はキオスク端末の導入率が日本よりも圧倒的に高かったです。卓上で注文し、カード決済ですが支払いができるのはもちろん、割り勘やメニューごとに分けて支払いできるためグループで食事することが多い観光客や従業員にとって便利で効率が良いと思いました。

また、韓国には「パリパリ文化」というあらゆる場面で効率の良さやスピード感を重視する国民性や価値観を意味する言葉があるほど、せっかちな人が多かったです。この国民性からか高齢者でもスマホを使いこなしたり、現金を使わない人が多かったです。この国民性から社会全体で効率性をよくしようとするいろいろな場面でデジタル化が進んでいるのかなと考えました。



【考察、まとめ】

この2か国には、公共の場に大型な端末を設置し観光情報を提供するサービスが多くありました。デジタル化の進展の差には国民の意識が関係しているかもしれないという新たな視点を増やすことができました。これらの取り組みを静岡に取り入れて、静岡の観光業をより良いものへと変えていくべきだと思いました。

【アンバサダー活動】

日本の文化を現地に伝えるアンバサダー活動では、日本からお好み焼き粉や鰹節、ソースなどを持参し、韓国と香港の2か所のホームステイ先でお好み焼きを振舞いました。ホストファミリーだけでなくフランス人のルームメイトにも食べてもらい、「とてもおいしい。」や「次日本へ行ったら買いたい。」など言ってもらえて嬉しかったです。この活動によって双方の文化をより知るきっかけとなり親睦を深めることができました。

このトビタテ留学で探究活動以外に語学力を向上させるだけでなく、静岡県や全国のトビタテ生や現地で知り合った人などたくさんのお会いや予想外の出来事があり、自分の視野を広げることができ、とても良い経験になりました。この事業や留学の魅力を多くの人に伝えるエヴァンジェリスト活動にも力を入れていきます。

